

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700732		
法人名	医療法人社団柏木内科医院		
事業所名	グループホームあさひ 1F		
所在地	北海道中川郡幕別町旭町24-72		
自己評価作成日	平成27年6月10日	評価結果市町村受理日	平成27年7月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0174700732-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は事業者が医師ということもあり利用者の健康管理はもちろん終末期の看取りも可能な数少ない施設である。又、定期的な訪問看護、状態の変化にはすぐに往診、治療もでき利用者の病院受診の負担がないこと。敷地も広く夏には色々な花々と野菜の収穫もでき利用者にも穫れたてのものを食していただける。又、収穫も一緒に楽しんでもらえる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあさひは、幕別駅からほど近い住宅街でコミュニティバスの停留所が目の前にある利便性の良い立地にある。建物の前には手入れの行き届いたプランターの花が咲いており、地域の人と利用者の目を楽しませている。事業所は開設から13年が経過し、利用者の重度化が進んでいるが、母体法人である医院との連携と医療的な知識の研修を行い、利用者の健康管理と褥瘡を作らないケアの取組みも成果を上げ、職員の誇りとなっている。利用者の日々の楽しみの提供も工夫を凝らしており、職員手作りの「特製かるた」や花札、地域住民が木工で作成し寄贈してくれたボーリングや輪投げなどで利用者同士の交流を促進し、楽しい毎日を提供できるよう取組んでいる。職員は常に利用者に関わり、寄り添うことで穏やかな生活を支え、地域と関わりながら生活を送れるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に全員で理念を唱え職員一人一人に意識付けを行い、実践につなげている。	法人共通の理念があり、毎朝職員が唱和し、理念を確認している。職員の勤続年数が長く、交代がないため職員は理念を理解し、支援にあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの慰問等地域との交流をもち、事業所の畑の草取りや畑おこしを手伝っていただき畑で採れた作物を食べてもらっている。	町内会に加盟し、行事に参加している。地域の夏祭りに出掛けたり、事業所の祭りに近隣を招いている。ボランティアの来訪もあり、利用者との交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者が医師であり、地域の方々の健康管理等、地域に貢献している。お買い物、お花見などイベントに出かけ、地域の認知症の人への理解、促進の場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見や要望について、職員間で共有確認し、サービス内容や質の見直し、向上に務めている。	運営推進会議は2カ月ごとに開催し、役場や地域、家族の出席がある。事業所の運営状況の報告とともに、参加者の勉強会をとり入れ、共に利用者を支えるようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を2箇月に1回行い、防災に伴う訓練や助言等、事業所、家族などと意見交換し、日常的に連絡を取り合っている。	幕別町で派遣している「介護相談員」を平成26年より受け入れ、風通しの良い事業所を行政とともに作り上げるよう取組んでいる。年1回開催される地域ケア会議にも出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊のある利用者に対しては居室を職員目の行き届く事務所の近くにしたり、外へ出たがる時は職員が同行し散歩や買い物等により身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束の排除のためのマニュアルがあり、昨年度職員が外部研修に参加し、職員に伝達研修を行っている。運営推進会議でも身体拘束と虐待を議題として取り上げ、法令上だけでなく不適切なケアを排除するために取組んでいることを伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会には積極的に参加をし、その内容を出席できなかった職員も理解できるように職員会議、ミーティングで共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は制度について学ぶ機会を持ち、必要なアドバイスができるよう知識を深め活用し支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に利用者、家族に十分な説明を行い不安や疑問を解消した上で手続を行なっている。又料金改定時その都度説明し理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情相談窓口」を設け、気軽に相談できるようにしている。又、運営推進会議を開催し外部者へ表せる機会をもち更に全職員で共有し運営に反映させている。	毎月訪問がある家族が多く、来訪時に利用者の様子を伝えるとともに隔月で「あさひだより」を発行し、写真で生活の様子を伝えている。外部相談窓口の掲示も行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に話し合う機会を設け意見交換や疑問点の解消、提案を聴き運営に反映させている。	毎月の職員会議や、管理者への日常的な相談がしやすい関係があり、職員が3年以上入れ替わらずに運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員とのコミュニケーションを密に図り個々の事情に合せた勤務時間の調整や労働条件など柔軟に対応しやりがいを感ぜられる職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職場内での勉強会を実施し個々のスキルアップにつなげている。又、様々な研修会に参加し、研修後は全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などを通じ同業者との交流で意見交換を行い、より良いサービスができるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が利用者の情報共有を行い新しい生活に不安にならないよう本人の気持ちや不安を受け止めることで良好な関係を築けるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設を見学して頂いた際に運営者と管理者が家族から要望、不安要因を聴取し前向きな対応ができるよう話し合いをし信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で本人と家族の希望に添った支援を見極め、状況に応じて地域包括センターや他の事業所の利用も視野に入れた利用者にあったサービスを選択できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が生活の中で力を発揮出来る場面を作るなど工夫し出来る範囲で家事の支援を職員と利用者が共に行い両者が助け合いながら信頼関係の築かれた生活を送れるよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問しやすい雰囲気作りを心がけ面会時、電話等で利用者の日々の暮らしや思いを密に伝え情報交換、共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は本人のこれまでの社会とのつながりを把握、尊重し、可能な限り継続できるよう支援に努めている。本人の大切な人々や馴染みの場所への訪問など柔軟な支援を心掛けている。	地域の祭りなどに出かけ、知り合いとの再会があった場合には利用者を訪ねてもらおう働きかけている。知人等の来訪時には居間や居室などで利用者の自宅のように寛いでもらおうようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士が和やかな会話や活動をして頂けるようレクリエーション等にてコミュニケーションを必要とされる遊びをし、利用者同士の信頼関係を築き保てるよう職員一人ひとりが工夫し支援するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も介護相談に応じたり、運営推進会議の委員として出席を頂き、情報共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望に傾聴して価値観を理解し、本人の意向に沿う介護が行えるよう努めている。	利用者の生活歴や身体の状況はMDS方式のアセスメントにまとめている。利用者ごとの趣味や他の利用者との遊びに楽しく参加できるように、傾聴を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者のこれまでの暮らしを理解するため本人、家族などから聴き、情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活、心身状態を把握するため常に目配りや、心配りに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、関係者との連携を大切にし、意見交換を行い本人にとっての最良の介護プランを目指し介護計画をたてている。	利用者ごとに担当の職員がアセスメントを実施し、会議で話し合いを行っている。看護師などの意見も取り入れ、健康と本人と家族の希望を尊重した計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、排泄など身体状態や生活の様子の記録を毎日個別のファイルに記載し、職員が常に確認出来、ケアサービスやプラン作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の希望、意向に沿うサービスの提案、サポートが行えるよう様々なサービスの情報把握に努めケアサービスやプラン作成に反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを持続できるように地域包括支援センター、消防、町内会等各機関と連携をとりながらよりよい支援につなげている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業者が内科医師であり、訪問看護により利用者の健康管理、状態変化への対応も訪問看護により適切に行われている。又、受診、通院の支援もしている。	医療法人が運営しており、定期的な受診や必要時の対応を行っている。また専門医等の受診は家族対応となっているが、必要に応じて職員が同行するなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はいつでも医師、看護師と連絡がとれるようになっていて日々の状態や急変時の連絡を取り適切な看護が受けられる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に対しては、本人のストレスや負担が軽減できるように家族、事業所代表の院長、医療機関との連絡を密にとり早期に退院できるよう情報の交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の方針は、入居時や来訪時など常に話し合い本人、家族の要望を最優先し、院長、職員全体で話し合い共有している。	終末期の方針について、医師が説明を行い同意書を作成している。職員も看取り研修を受け、長期にわたり寝たきりの利用者にも褥瘡を作らないなど、細やかなケアで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し常時職員が把握できるようにしてある。職員が救命処置の講習も受講しておりいざというときに対処できるよう訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと避難訓練は年2回実施し、すべての職員が実践的な訓練を定期的に行い、運営推進会議においても地域の代表の方に災害時の協力をお願いしている。	避難訓練を実施している。職員は救急救命講習を受講し、自家発電装置も備えている。事業所の庭が町内の一時避難場所となっているため、近隣との協力関係も推進している。	火災を想定した訓練を年2回実施し、冬季に行った訓練には地域からも参加があった。今後も運営推進会議や町内会の会議などを通じ、近隣との協力関係を進めるとともに、火災以外の災害への対応も検討していくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳を常に持ち、一人ひとりの人格を尊重しプライバシー厳守を心がけている。	認知症や高齢者の疾患を学び、利用者それぞれの価値観や生活リズムを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で目配り、気配り、心配りを一人ひとりが工夫し支援するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活の流れを尊重し、それに応じて柔軟に対応している。その日に本人がしたいと思っていることを大切に、可能な限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には本人の着たい物をえらんでいただいている。又整髪、化粧品等その人らしいオシャレを楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関わりの中で個々の好き嫌いを把握し献立を考えたり、季節ごとの旬の食材と一緒に下処理を手伝って頂き食を通して季節を感じていただけるようにしている。	献立は職員が作り、下ごしらえなど利用者が参加できる部分で力を発揮してもらっている。季節感を大切にしており、山菜や事業所の畑で採れた野菜が食卓に並んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合せ、大盛り、少量、軟菜、粥、米飯と配膳している。 水分は一日1000mlを目安に嚥下の困難なときはトロミを付けるなどで配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に合わせたケアを行い清潔保持に配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	デリケートな部分でもあるので自尊心に配慮して接するように心がけている。 個々の状態に沿ったケア用品を選び排泄の自立に向けて支援している。	羞恥心への配慮と、清潔の保持の両面からそれぞれの利用者にあった介護を行っている。介護用品の選定や場面に合わせてポータブルトイレの活用も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人ファイルにて排泄パターンを把握し便秘の時は水分摂取と歩行の出来る方は運動を促し予防のサポートをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の体調、ペースに合せリラックスして入浴ができるような環境を整え、個々の希望に添えるような支援を心がけている。	入浴は週2回実施し、汗をかいた場合などには随時のシャワー浴も行っている。朝風呂など、利用者の気分を尊重して実施し、風呂上がりには好みの飲物でリラックスしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーションや運動などで生活のリズムを整えるような支援をしている。 又、不眠時は温かい飲み物の摂取と不快な物音を立てないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はひとりひとりの薬の内容を把握し、状態の変化には主治医に適時報告をし指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の経験や知恵を発揮できる場を作り、張り合いや喜びを感じていただけるように支援している。又、コーヒーが好きな方には好きな時に飲めるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行の困難な利用者も介護タクシーを利用し大型スーパーへ買い物、外食、お花見、遠足等できるだけの利用者が参加し楽しむように支援している。	事業所の庭は広く、四季折々の表情が楽しめるため、利用者の外気浴にも活用している。また、散歩や買い物などにも出かけている。行事は同じ法人で運営する他の事業所と合同で行うこともあり、家族も招いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い少額のお金を持ってもらい、洋服の訪問販売、ヤクルト、夏場には戸外でフリーマーケットを開催しお金を使える場を作り実践している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人への電話の希望時は施設の電話を利用し取次をしてお話してもらおう。又、手紙の書ける方は宛名を書いてあげ投函してあげる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるように花を飾ったり、四季折々の行事のポスターを掲示し季節感を感じてもらえるよう工夫している。又、夏、冬の衣替えは利用者とともに行っている。	共用空間はゆったりと設計されており、エアコンの設置で温度管理も行われている。植物を多く配しており、事業所前の花が咲き乱れるプランターや裏の畑や花の群生などが利用者の目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには長椅子を配置しゆったりとした空間作りに配慮している。ホールにはカラオケがあり思い思いに歌ったり音楽を聴いたりできるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた筆筒や机を持ち込み本人の好みに合せ居心地が良く過ごせるよう配慮している。	居室には洗面台が備え付けられている。清掃も行き届いている。なじみの家具や思い出の品を持ち込んで、今までの生活の継続ができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室等全てに手摺を設置し車椅子でも自由に移動が出来るようになっている。又、一人で出来ることは手を貸さず見守りできるように支援している。		